

いずれも頭蓋内損傷が多く、ついで脊髄損傷である。墜落の高さでは炎害9m以内、自殺10~19mが最も多い。また転落では酩酊によるもの18例(64.3%)が多い。

これらのうち15例を剖検した結果、階段より転落4例の死因は頭蓋骨々折、硬脳膜下出血である。窓より墜落(高さ4~16m)4例は胸腹腔内出血(肋骨々折、骨盤骨折)、脳挫傷、頭蓋骨々折。櫓より墜落(高さ5~25m)4例は即死および15分以内に死亡。2例は心臓破裂、肝破裂、胸椎骨折、肋骨々折等で、他の2例は脳挫傷、胸椎骨折で、出血量は即死例は総量890cc、15分例では1600ccである。カウンターより墜落(高さ1m)1例は乳児で硬脳下出血、および頭蓋縫合離開。陸橋より墜落(高さ12m)1例は硬脳下出血、頭蓋底骨折、肝破裂、肋骨々折。崖より墜落1例は頭蓋骨々折と泥土による気道閉鎖性窒息である。

3. コナダニ類の繁殖について

(寄生虫) 白坂竜曠

コナダニ類の研究はとくに終戦後輸入されたサトウの中にダニを多数発見して以来、とくに食品中のコナダニ類が注目され始め、この調査をも含め多くの学者により、多数の報告を見るようになった。しかし古くは1800年代にその記載を見ており、わが国では1900年代の初期、三宅、Scribaにより人尿中よりダニを見出した論文が報告されている。以後、人尿中、人糞中、喀痰などからコナダニ類やホコリダニ類と推定されるダニの報告論文が100以上も発表されて人体内ダニ症なるものが問題とされて来た。上記の如く近代に到りダニの種類も明確化された追加報告を多く見るようになった。このようにコナダニ類は一般的には知られる要素を含みながら、あらゆる食料品店の種々な貯蔵食品の中に、また米麦、小麦粉等の中に発生し、また貯蔵倉庫の中などでは1平方メートルあたり1億数千万という驚くべき数が存在するようである。

われわれは最も普遍的に存在するケナガコナダニ、サトウダニ、ムギコナダニについて、その繁殖の重要な要素である温度、湿度、栄養、およびその食品の水分含量について、いろいろな条件下に、これらのコナダニ類の繁殖の状況を観察し、ダニの種類によりその条件にある程度の差異を認めたこと、また概ねは湿度75%RH~95%RH、温度25°C~30°Cが至適条件であることを発見した。

また食品についてもダニの好むものと然らざるものを見出し、また薬品中にコナダニが発生することから、とくにコナダニ類の好む薬剤と逆に殺虫作用の働きを示

す薬剤とがあることも発見した。

4. 遊離肺の酸素消費

(第一生理) 草地良作

Bostroem & Lochner (1955) は遊離肺の酸素消費が、供血犬のショック時に6~9倍に増加することを報告している。演者は白金電極法にて血液酸素分圧を測定する方法でこれを追試するとともに、さらに血流速度および血液酸素分圧と酸素消費との関係について追求した結果を報告した。

5. 中央検査室における結核菌検査8年間の動向

(中検・細菌部) ○長田 富香・渡辺 好子

ストレプトマイシンの発見に端を発し、その後相次ぐ抗結核剤の発見により、結核症の治療に関する研究も一段落ついたかと思われたのも一時で、昨今では各種抗結核剤に耐性の結核菌が急速に増加して治療が困難となり、また一方抗結核剤の出現以前の陽転者、あるいは児童の耐性結核菌による重感染、または初感染が注目されるに至った。本学病院中央検査室における結核菌検査成績については、33年の本学会総会で29年~33年の4年間の検査成績をまとめて報告したので、今回はその後の4年間における検査成績の推移について比較検討し、今日の結核菌の現状を把握し、将来の研究に備えたいと思う。

結核菌検査総数は前4年間で11400件、後4年間で約11500件で、これらの検査成績について以下記す項目に従って検討した結果について述べた。

I 検査件数の推移

II 結核菌陽性率の比較

III 結核菌初発集落発育の時期

IV 塗抹陽性培養陰性例

V 抗結核剤耐性度の推移。

6. 人型結核菌の変異について

(細菌) 平野憲正・須子田キヨ・○弥吉真澄

非定型抗酸菌が集落の色や形、普通寒天に生えること、およびモルモットに対する病原性などの点から人型結核菌と区別されている。そこで患者の喀痰などから分離された結核菌についても種々実験を試みたが普通寒天培地に培養できるものはなかった。しかし、われわれは保存菌株の人型結核菌H37Rv, H₂, 青山B株についてそれぞれ寒天培地に培養を行なったところ、いずれも集落の発生を認めた。これらの集落は斜面培地に数コから数十コ発生する。そこでわれわれはこのような保存菌株の中には普通寒天培地にも生えるような変異株が混在しており、これが寒天培地に集落を作るのであろうと考え